

金融広報アドバイザーの紹介

どの年代の人にも 金融をもっと 身近なものに

政橋奈保美(富山県)

■小さな声に励まされて

「あのね、明日からお母さんがおこづかいくれるつて」。小さな子が駆け寄って、うれしそうに話しかけています。

「そう。良かったわねえ」

「うん」

少し離れたところで、笑顔で会釈するお母さん…。

これは、政橋奈保美さんが親子マネー教室の講演を終え、帰り支度をしていったときのワンシーンです。その日は、約20組の親子が集まり、おこづかい帳の話や買い物ゲームをしながら、お金のことを楽しく勉強しました。

「うれしかったんでしょね。小さな子が、わざわざ報告しに来てくれたんですから。何だか、私も温かい気持ちになりました。小さなことですが、そういうときって、アドバイザーの仕事をやっていると本当によかったなと思います。それと、これは高

て対象者の幅がぐんと広がり、やりがいと責任も大きく感じているそうです。

「金融広報委員会には便利で分かりやすいテキストなどがあるのでとても助かっています。それでも講師としてどう説明すれば分かりやすいか、いつも考えています。関係するセミナーや情報誌にはいつも注意し、これはという資料などがあれば必ずストックするようにしています。それと、ほかのセミナーでの講師の方々に、注意深く観察するようになりましたね。話

知識がないから参加しても無駄。どうせ難しい話に決まっている、と敬遠していらつしやる方も多いのではないのでしょうか。でも、実際に参加された方々からは、普段聞けない話を聞けてよかった、という声がたくさん寄せられます。一人でも多くの方に、気軽にセミナーに参加していただければと思います」

とつづきにくい金融のことも、分かりやすく話してもらえば、身近になります。皆さんもぜひ一度足を運んでみてください。

校でクレジットカードや消費者ローンについて話したときなんです。やはり終わった後に1人の女子高生が追いかけて来て、「ファイナンシャル・プランナーのやりがいつて何ですか?」と尋ねるのです。講演内容とは直接関係ありませんが、興味を持ってくれたのでしょうか。そうした形でも反応が確かめられるのはうれしいですね」

■ぜひ参加してほしい 金融広報委員会のセミナー

ファイナンシャル・プランナーとしての金融商品に関する高度な知識を背景に、ライブラリングを専門分野とする政橋さん。金融広報アドバイザーに就いたのは2007年4月。以来、ほぼ月1回のペースで、県内各地で広報活動を行っています。それまでも、民間が主催するセミナーではたびたび講師を務めてきましたが、金融広報アドバイザーになっ

たこと、普段の会話から『けろ』と思つたネタは必ずノートに書いています。セミナー以外でも、金融広報委員会のことを日ごろからPRするようになつた政橋さん。最後にこう付け加えました。

「お金に余裕のない私には関係ないこと。



金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計や金融・金銭教育の指導等を行う金融広報活動の第一線指導者です。現在、全国に約480名います。



家計簿記帳から始める 確かな生活設計

中野よこみ(宮崎県)

中野流節約術と生活設計： 人生三大出費の準備に向けて

消費生活センターで啓発員として働いていたころ、宮崎県金融広報委員会の方に勧められて金融広報アドバイザーに。栄養士(食の安全)・消費生活アドバイザー・環境カウンセラーの資格を生かし、暮らしに密着したアドバイスならと引き受けて、

今年で7年目の中野さん。得意とする分野は、家計簿記帳による家計管理と、契約に関するトラブル防止。家計管理については、「先取り貯金の勧めから」その原資を見つけるために中野流水道光熱費節約術がアドバイスの鍵に。「環境問題もからめて、上手に節約に努めましょう」と話しています。でも、皆さん最初

は必ず無理だと言います。もう限界！ギリギリでやりくりしているからそれ以上は……」
そうした主婦の方々に対し、ちよつとした配慮で確実に節約できるコツを披露。
「例えば、待機電力。使わない電化製品のコンセントは抜いておきましょうとか、炊飯器でご飯を炊き、残りを1日中保温にしておくなら、2回

炊いた方が電気代を節約できるとか、そんなごく当たり前のことからアドバイスします。こんな簡単なことでも、月に1000円〜2000円ぐらいくらい節約できます。節約は苦しみではなく楽しみだと思ってもらえるように話します。そして、家計簿を付けてきちんと管理していきましょう、環境にやさしく暮らすことは実はお財布にもやさしい」とでは、節約して浮いたお金はどうするか？ 中野さんは、言います。
「すぐに外食などに使っちゃダメ。将来の三大出費*に備えて貯金する。長い目で見て何に使うかをきちんと考える。それが生活設計という考え方に結び付いていくのです」

家計簿記帳を始めた皆さんから いただく声がうれしい

「月に3〜4回ほど県内を回ってお話していますが、皆さん大変興味を持って聞いてくださいます。それと、この仕事をしていてうれしいのは、やはり感謝の言葉をいただくことです。家計簿記帳をきっかけに、家族とよく家計のことを話すようになり協力もしてくるようになったとか、節約してコツコツ貯めていたお金が子どもさんの大学進学に役立つ、住宅ローンの繰り上げ返済をしたなど……いろんな声が届

きます」
会場に自分が実際に付けている家計簿を持参し、自身の経験も交えながら説明する中野さん。こうしたこともあつてか説得力は抜群となつています。

ところで、栄養士の資格を持つ中野さん。主婦の皆さんに対するアドバイスは、家計簿の記帳や水道光熱費の節約術だけではありません。

「例えば、冷蔵庫の中にあるものは、必ず週末には使い切りましうと言っています。豆腐が半丁、もやしや袋半分残っているとか、そういうことつてよくあること。安売りだからと多めに買ってしまったもの、残してしまつたらもったいないです。それと、私が日ごろ実施している節約料理の披露。これなんかかなり好評です。そのせいでしょつか、皆さんからも節約料理のアイデアがどんどん披露されます」

理屈ではなく実践で鍛えられたノウハウだけに、主婦の皆さんも興味津々とか。もちろん金融広報アドバイザーとして、世の中の動きや新しいニュースにも敏感であることを心掛け、消費生活センターにも頻繁に赴き最新情報をフォローしてお話をしているとのこと。

*三大出費(教育資金、住宅資金、老後資金)